自衛隊の皆さん。頼みます!!

３月11日に発生した東日本大震災に係る、大規模震災災害派遣の命令を受け全国の部隊が災害派遣活動を開始した。また、14日には陸海空を統合した統合任務部隊（JTF―TH：JOINT TASK FORCE TOHOKU）が編成され、東北方面総監が指揮を執り日々多くの部隊が活動している。

しかし、原発への対処はJTF―THとは別の指揮系統であり、14日に原子力災害派遣の行原命が下達され中央即応集団司令官が陸海空の統合活動の指揮を開始。福島第一原発から約20kmのところにあるＪヴィレッジや郡山駐屯地、福島県庁にCRF司令部の調整所等をおき、日々原子力災害派遣活動（主な活動は、除染活動・原発のモニタリング及び放水など）を行っている。

それぞれの特性に合わせた原子力災害活動を行っている隊員の姿とコメントを紹介するとともに（写真説明の「」内は隊員の生コメントですが、写真の人物とコメントは別です）、改めて「隊員の皆さん。頼みます！」

「自衛隊・消防・東電を統合調整（Ｊヴィレッジ）」

災害派遣の担当を東北方面隊から申し受け、３月14日から対応している。

この未曾有の大災害の中、現地調整所「Ｊヴィレッジ」が設置され第一線において自衛隊の放水冷却隊による放水、東京消防庁等の消防車及び東京電力のコンクリートポンプ車などによる放水要領、ヘリによるサーモグラフィの実施、緊急時の人員輸送の準備、除染の実施など東京電力による復旧作業との調整を一元的に行い、原子力災害への対応を円滑にしている。

現地調整所では、３月19日以来、ＣＲＦ司令部を中心に内局・統幕の連絡員を含め約30名をもって調整を実施。また現地調整所要員の他、「Ｊヴィレッジ」には、中央特殊武器防護隊（配属化学科部隊含む）、陸海空の放水冷却隊、機動路啓開隊、消防、東京電力関係者等が位置している。そして彼らが一致団結して、戦わなければならない敵は放射線や放射性物質を放出し続ける原子炉施設である。

彼らは決して恐れず、諦めず、冷静に、現状を何とか打開しようと、その難局に対時している。時に相互の調整に戸惑うこともあるが、常に他者を尊重し、そのチームワークは、「日本のため」というひとつの目標のために、素晴らしい団結力を示す。

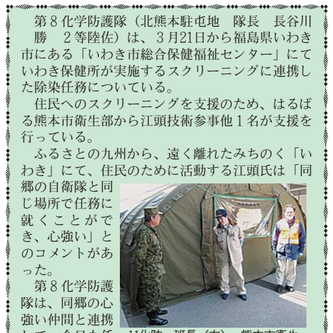
国民の期待の中、３月17日1000頃、第１ヘリコプター団のＣＨ―47　２機からの空中放水に成功した。しかし原子炉は十分な冷却には至っておらず、地上からの放水命令が下達された。同日2000頃、警察放水車の放水に引き続き、第１回目の自衛隊の地上放水が夜間行われた。このような状況下、翌18日に県庁のオフサイトセンターから現地調整所要員が「Ｊヴィレッジ」に前進（現地統制所開設の正式決定は19日）。同要員の第一線進出以降、現地での指揮の統制、状況の把握、成果の確認等が一元的に実施され、同日から三自衛隊放水冷却隊の（米軍ポンプ車１両含む）第２回（18日）、第３回（20日）、第４回（20日）、第５回（21日）放水が実施された。23日午後のサーモグラフィによる温度測定では１号機は格納容器上で最高温度38度、２号機は屋根の温度で最高23度、３号機は使用済み核燃料プール上で最高温度57度、４号機は使用済み核燃料プール上で最高温度28度となり、任務を完遂した。

そして４月18日現在、原子炉施設等は比較的安定はしているが、未だ予断は許さない状況であり、ヘリによるサーモグラフィ撮影の他、放水冷却隊、除染隊、機動路啓開隊等は引き続きいつでも原子力発電所に突入できるように即応態勢を維持している。今後も福島県内の除染所における除染任務なども含め引き続き任務を続行していく。

内閣総理大臣視察　放水作業をする陸海空の隊員への激励状況
「自衛隊の代表という気持ちで職務に挑む」

任務上番の糧食の受領
「派遣され約10日間缶詰ばかりでしたが、10日ぶりに配給されたトマトが新鮮でみずみずしくて大変美味しかったのを覚えている」

CRR 作戦会議
「むしろ、淡々と長期戦に臨むところです」

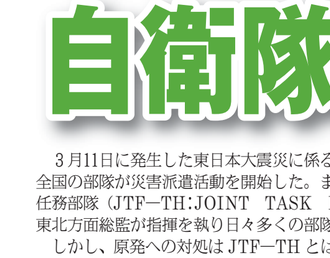

11化防　班長（左）、熊本市衛生部江頭技術参事（中）、いわき市保健所職員（右）

第８化学防護隊（北熊本駐屯地　隊長　長谷川　勝　２等陸佐）は、３月21日から福島県いわき市にある「いわき市総合保健福祉センター」にていわき保健所が実施するスクリーニングに連携した除染任務についている。

住民へのスクリーニングを支援のため、はるばる熊本市衛生部から江頭技術参事他１名が支援を行っている。

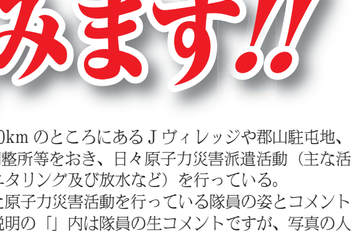
ふるさとの九州から、遠く離れたみちのく「いわき」にて、住民のために活動する江頭氏は「同郷の自衛隊と同じ場所で任務に就くことができ、心強い」とのコメントがあった。

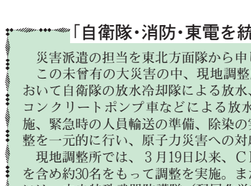
第８化学防護隊は、同郷の心強い仲間と連携して、今日も任務に邁進している。

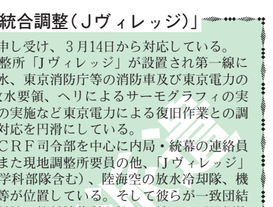

Ｊヴィレッジ内を視察する陸幕長

サーモグラフィ撮影時の隊員の装備状況

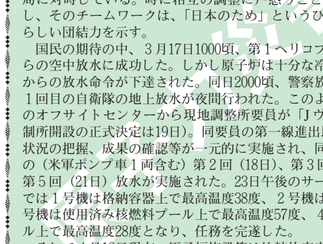
サーモグラフィ撮影の機内状況
「現在の任務を全うすることが、事態の収束と更なる不測事態に備えることになるのであれば、全力で任務を全うします」

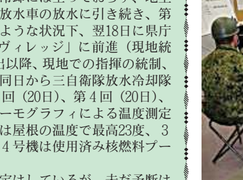

人員除染所
「我々は化学科隊員、原発対処という化学科にしかできないこの任務を今迄の訓練が無駄でなかったと実感しながら任務に臨んでいきます」


ヘリによる空中モニタリング後のスクリーニング
「今までの訓練成果を十分に出すことが出来るよう一生懸命頑張りたい」


原発への出動に備えたミッションブリーフィングを受ける隊員
「熱意をもって冷静に任務を遂行するように心掛ける」

タイベックス装着訓練
「今まで自衛隊で飯を食べてきたのは、この時のため。頑張ります」


情報収集のため防護服の準備をする隊員
「日本の状況が安定するまで自分の任務を最後まで遂行し、全うします」


タンク確認
「日本の危機に自衛官として今、自分にできる事を精一杯実施します」

宿営準備中
「被災者の方々の気持ちを思い、任務遂行します」

脱衣所
「自己犠牲」

サテライトかしまの宿営地全容
「今回の任務で、一般の人と接する機会が増え、自分たち自衛官がどんな風にみられているか分かり、この仕事の重要さが身にしみた」

家族への言葉

●いってきます。頑張って来ます。
●大丈夫だよ。
●頑張っているから心配するな。
●国の役に立てるよう一生懸命頑張ってくるよ。
●男の子は女の子を守ることが一番強いこと。強い男の子になれ。（６歳長男へ）
　頑張りすぎず、自分のペースでよろしく頼むよ。行ってきます。（妻へ）
●後のことは頼んだ！
●みんなのために頑張ります。家族のために頑張ります。
●無事に帰ってくるから、安心して下さい。
●しっかり頑張ってくるよ。
●自衛官としての誇りを持って任務を達成してくる。無事帰ってくるから心配するな。
●いつもありがとう。行ってきます。
●特に問題ないよ。
●留守は頼む。体に気をつけて。理解してくれてありがとう。
●多分長くなる。後で連絡する。行ってくる。
●今回も仕事として任務をこなしている。普通通り仕事をこなしているだけなので、心配せず家の方も普段通り真面目に働いて生活してほしい。
●愛する妻と娘へ
　パパは福島原発近くの役場に来ています。今の幸せはお前なくしては語れないものだったしたらママの生まれ育った緑豊かな福島を俺は守りたい。この国難に対して私の持っているすべての力を…。私と私に関わるすべての人々の幸せのために…。そして将来を背負う娘達が放射能に怯える事のない明るい未来のために、パパは頑張ります。いつ帰れるか分からないけど必ず生きてかえります（未送信メールより）
●帰ったら結婚して下さい。
●心配しないで待ってて。
●絶好調です。
●仕事を終えたら家族サービスをいっぱいするから待ってて。
●俺たちの存在価値を日本に示してくる。
●運はいいから大丈夫
●頑張らせて頂きます。家は任せた。
●いつ帰れるか分からないけど、家の方はよろしく頼む。

隊員寝所
「いわき市の方々から、『自衛隊が一番"助かっています"』と心に響く言葉を頂いた」

特集 原子力災害派遣

特殊消防車による放水

医療チーム及び衛生隊員に重症患者宅を教える施設隊員
「今やらないで、いつやるんだ」

情報収集が終わり慎重に防護服を脱ぐ
「それぞれの立場で、様々な人が災害対処に当たっていることを思い、自分に与えられた任務を全うしたい」

情報収集が終わり除染準備をする車両
「今迄生きて来てこんなに感謝されたことはありませんでした。これからも国民の期待に応えたいと思います」

関東補給処化学部長による放射線教育
「命を懸けて任務を全うします」

器材整備
「当たり前のことを、ボーッとせずに、ちゃんとやる」

隊員宿泊所
「派遣先で、いつも会う人会う人に『お疲れ様です』と言ってもらえる」

除染所「没我支援」

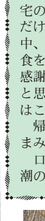
情報収集が終わり除染を受ける装甲車
「民間人や隊員の放射能による心配を取り除き、安心して生活・任務遂行出来るよう全力を尽くす」

ＣＨ―47エンジンフィルター除染
「心頭滅却すれば火もまた涼し」

除染所　「今自分に出来る事を精一杯実施する」

隊員の声

●高速のSAで民間の方から「頑張ってください。」や「お気をつけて。」といったねぎらいの言葉をかけられた。
●休憩で立ち寄ったSAの店員の方から「ありがとう」の言葉とともに商品のアメ（２袋）を頂いた。
●陸自OBの父に「鮭の子は鮭だな。」と言われた。
●多くの同僚、部下から激励を受けた。
●職場の仲間から激励の言葉をもらった。
●自衛隊のことを良く思っていなかった知人が話しかけてくれるようになった。
●鹿屋の飛行場を出発する際、隊員、事務官を含む皆から見送って頂いた。機内から見ていて有り難く思い気持ちが引き締まった。
●（Ｊヴィレッジ施設内の）喫煙所で東京電力の人と話をしたが、（仕事に懸ける）とても男らしい人だった。
●東京電力の人達がいつも「お疲れ様です。」と言ってくれる。
●郡山での戦力回復時、浴場当番に「2時間開いていて本当に助かります。」と言うと「そう言われるとやりがいがあります。」と言われ心が温かくなった。
●現地から電話がつながらず、５日後にメールの返信をもらったときは、つい涙が出ました。
●妻が勤務先で「ありがとうございます。」と同僚に声を掛けられると申しておりました。
●被災者の方や国民の皆様からのお礼や応援メッセージが心に響いた。
●マスクを着けていなかったので、スクリーニングに来ていたおばさんに「危険だ。」と注意されたので、「放射線の数値的には問題ありません。我々がマスクで防護している姿を見せたら皆さんを意味もなく怖がらせてしまいますから。」と言ったところ、「あんたいい男だね。」と言われた。
●防護マスクや防護衣等、装面装被した経験がないのに、装着下での何時間にも及ぶ海上からの給水任務を見て、海上自衛隊員が勇ましく、かつ頼もしく感じました。またその共同作戦に一体感を感じました。
●車両で移動中、子供達がちぎれんばかりに手を振ってくれた。
●近所の方が留守家族を家に招いてくれて、長男がとても喜んでいたと妻から聞いて安心した。
●自分と隊長が撮影した第１原発３号機への放水作業の映像が防衛大臣の記者会見で公開された。


出発を待つ隊員
「今迄実施してきた訓練の成果を発揮し任務を完遂できるように頑張ります」

入浴支援

隊員の除染作業
「被災された方々が１日でも早く元の生活に戻れるようにいかなる任務にも取組んでいきます」

訓練準備　「全国戦車部隊代表でがんばります」

原発への出動に備え訓練を行う航空自衛隊消防隊
「車に乗っている時に、無言だが頭を下げてもらえる」